

大妻福祉News

Vol.10

発行日2016年9月27日

大学での「福祉」の学び

～地域企業との連携：障害のある方々のスポーツ大会～

みなさん、ごきげんよう。
大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科です。

私たちは「大学で学ぶこと」について考えて頂くための情報と、「生活の中にある福祉や介護」の情報をお届けするために、「大妻福祉News」を発行しています。

福祉や介護は、生活の中にあるものです。決して無くならない自分の一部です。福祉や介護を学ぶということは、「生きること」を学ぶことだと思っています。

皆さんと紙面を通じて、様々な交流をしていきたいと思っています。

人間福祉学科 一同

人間福祉学科の学生は、正規の授業以外にも様々な活動を通して福祉の学びを深めています。

その1つが、学生が地域と連携して社会貢献活動を行うプロジェクト（地域連携プロジェクト）です。写真は、多摩地域で障害者を雇用している企業と小川ゼミが協力して、障害のある従業員のスポーツイベント「ティーボール大会」を開催した時のものです。

多摩キャンパスに24チーム、700人以上が集まりました。学生は障害者雇用企業のスタッフと協働して、大会運営を手伝ったり、各チームに入ってゲームを楽しんだりしました。ここでの出会いをきっかけに、その後、学生たちは障害者雇用をしている企業を見学させていただいたり、インターンシップをさせていただいたりなど、様々な関わりを続けています。福祉専門職員以外にも、福祉に関連した仕事、分野には様々なものがありますので、このような幅広い体験を通して、自分に合った進路を見つけて欲しいと思っています。



写真：ボランティアをさせて頂いた学生

(担当：小川浩)

お問い合わせ先

大妻女子大学 人間関係学部
人間福祉学科 福祉共同研究室
〒206-8540

東京都多摩市唐木田2-7-1

電話：042(372)9198

FAX：042(372)9202

Mail：

・tkurano@otsuma.ac.jp
(担当：藏野ともみ)

・ogyu@otsuma.ac.jp
(担当：尾久裕紀)

★大学ホームページも

ぜひご覧ください。

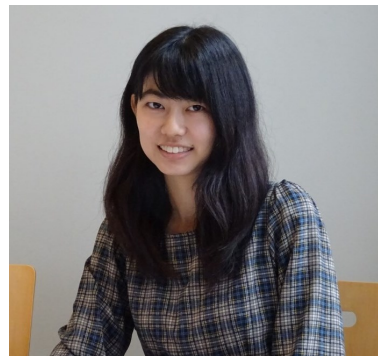
「教えて！先輩」人間福祉学専攻2年 西口夢乃さん

(浦和ルーテル学院高等学校出身)

私は現在、人間福祉学専攻に所属しています。私が福祉を志望した理由は2つあります。1つ目は弟が発達障害であることがきっかけで、家族や友人たちに与える影響や支援の方法などを学びたいと考えたことです。2つ目は、薬物依存から回復した人の話を聞いたことがきっかけでこのような人たちがどのように社会復帰していくのかを学びたいと考えたことです。そのために社会福祉士、精神保健福祉士の資格を取り、ソーシャルワーカーとして働きたいと考え、大妻女子大学に入学しました。

2年生の夏季休暇中に、知的障害者の事業所でボランティアを行いました。知的障害と言っても幅広い支援をしていることを知り驚きました。障害の分野を学べば学ぶほど奥が深いことにも気づき、ますます興味を持つようになりました。

大妻女子大学の社会福祉士、精神保健福祉士に対する受験支援は手厚く、この講義をしっかりと受けることで、資格試験合格に繋がると思います。これからも学びを深め、社会に貢献するソーシャルワーカーになりたいと思います。



人間福祉学専攻の特徴

相談援助専門職である社会福祉士と精神保健福祉士、2つの国家試験受験資格取得を目指すことができます。

介護福祉学専攻の特徴

介護福祉士を目指す4年制大学です。さらに、社会福祉士国家試験受験資格取得を目指すことができます。

国家試験対策

本学科では、日々の授業を大切にすることを前提とした上で、学内でも様々な国家試験受験対策を行い、学生自身の取り組みをサポートしています。

(1) 模擬試験実施

社会福祉士 年間4回、精神保健福祉士 年間3回
介護福祉士 年間2回

(2) 学内受験対策講座

- ・学内教員による「対策講座」

(3) その他

- ・受験対策科目開講
- ・ゼミ及び担任によるグループ・個別指導
- ・夏季休暇、春季休暇の勉強会開催 等…

「未来の姿」 廣田百恵さん

介護福祉学専攻卒業生(2016年3月卒業)

木下の介護リアンレーヴ東船橋

介護福祉士・社会福祉士

(和洋国府台女子高等学校 出身)

現在、有料老人ホームの介護職として、利用者が過ごしやすいようにその人の生活を尊重した支援を行なっています。

今の仕事に就けた学びの始まりは、高校時代にあると思っています。現代文の時間に「天声人語」を要約する時間がありました。当時はそのことがどのような力になっているかを気づいていませんでした。

しかし、大学入学後のレポートで伝えたいことをわかりやすく書くことや、更に今現在も職場で利用者や家族、職員にもわかりやすく説明する力、つまり論理的な思考力が身につけているのではないかと感じています。

大学に入学し、複数の施設での介護実習、社会福祉援助実習を経験していくうちに、福祉施設

における職場の現状がなんとなくですがわかってきました。学生の時の実習現場では、利用者の話を「その話は何度も聞いたから」「今時間がないから」という理由で聞き流す職員を見かけました。今、自分は利用者の話をなるべく聞こうと立ち止まり、目線を合わせ5分は絶対に聞くように心がけています。すると利用者から「あんたと話していると楽しいし落ち着く」「あんたは話し聞いてくれるから話しやすい」などの言葉を頂くことができました。自分のこの姿勢はこれからも大事にしたいと思っています



利用者とお話しする大切な時間

生活お役立ち情報

～多様化する高齢者サービス～

お年寄りにはデイサービスで何をしているのでしょうか。井上ゼミでは、多摩市内のデイサービスを取材する機会を得ました。学生の興味に応じて、美容やネイル、アロマセラピーを実施している事業所、アニマルセラピー（それもホース・セラピー！）を実施している事業所、毎日、散歩や買い物、時には小旅行をプログラムとする事業所など、学生が実際に外出して取材しました。なかでも実際に馬に乗る乗馬療法にはビックリでした。海外では、乗馬の効果が医学的にも検証され、障害のある方や高齢者のリハビリテーションメニューとして活用されていますが、多摩エリアでもお年寄りが実際に馬に乗れるデイサービスがあったのです。安全に配慮しながら、お年寄りが馬に乗り、姿勢を良くし、馬の動きに合わせて、前後左右バランスをとることが、脳や体に刺激を与え、身体的なりハビリテーションに効果があるとされています。まさに「ホース」の力かもしれませんね。凄い！

(人間福祉学専攻 井上修一准教授)

Review～オープンキャンパスでのオレンジリボン運動～

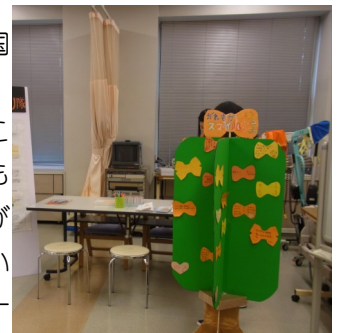
皆さんは、「オレンジリボン運動」をご存知ですか？それは児童虐待防止啓発活動のことで、その活動の象徴が

「オレンジリボン」です。藏野ゼミでは、国が示している啓発活動月間の11月だけでなく、年間を通して、児童虐待の現状を学ぶこと、障害や病気がある等配慮が必要な子どもの子育て支援も視野に入れながら、『誰もがスマイル宣言』と題した取り組みを行っています。これは、障害のある子どもを抱えた一人の母親との出会いから始まりました。今年度の取り組みもオープンキャンパスに会場して

くださった高校生や保護者の皆様とお話をさせ

ていただくことから始まりました。活動に賛同してくださった方々に手

作りのオレンジリボンを配布するだけでなく、「誰もが笑顔になるために自分ができる行動、思い」をメッセージツリーに記入して頂きました。待機児童の数、保育園設立に関すること等がニュースで取り上げられる社会の中で、自分たちにできる行動について一緒に考えてみませんか？ 10月15・16日に実施する大学祭でも活動しています。



メッセージツリーにぜひ皆さんの声をお寄せください。